

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101447		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	徳島市上八万町中山83番地の1		
自己評価作成日	平成28年9月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑と川に囲まれた自然豊かな環境の中で、一年を通して四季の移り変わりを感じていただけるよう支援している。施設に沿った桜並木の散歩や花壇の世話に加え、裏山で採れるたけのこや山菜、菜園で収穫した季節の食材を献立に活用しながら利用者と楽しみを共にしている。家庭の暖かさが感じられ、くつろいだ時間が過ごせる関係の構築に努めている。各専門科への受診援助やリハビリテーションの通院援助を通じた健康管理に加え、緊急時の協力体制の整備により利用者や家族の安心が得られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に森林の広がる自然豊かな環境の中に位置しており、四季の移り変わりを肌で感じることができる。敷地内には、同一法人の運営する他サービス事業所が併設しており、緊急時や災害等の協力体制を整備している。菜園や裏山で採れる栗や筍、山菜等の季節の食材を利用者と職員で調理するなどして、楽しい時間を過ごすことができるようにしている。気候の良い日には、利用者と職員で、近隣へ散歩に出かけたり、外のベンチで会話を楽しんだりしている。職員は、利用者一人ひとりの健康状態を把握し、状況に応じて通院介助や外出支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を事業所内に掲示し共有に努めている。利用者との日頃の関わりの中でプランの検討や理念の実践に取り組んでいる。	事業所では、法人の理念とともに地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成し、事業所内に掲示している。日頃から、理念を意識した実践に取り組んでいるが、職員間で理念について話し合う機会は十分とはいえない。	全職員で、理念について話し合うなどして再確認を行い、さらなるサービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭等の催しへの参加や作品の展示を行っている。最寄りの店舗への日用品等の買い物や、散歩をする時などに交わす挨拶を通じて交流を図っている。近隣住民へ行事の参加を呼びかけている。	事業所として町内の運動会に参加したり、文化祭に利用者と職員で作成した作品を出展したりしている。また、買い物は地元の商店等で行っており、その際に地域の方と挨拶を交わすなどしている。地域のボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議を通して、民生委員の方やボランティアの方と定期的に話し合いの場を設け、地域間の情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況を報告し、話し合いの中で頂いた意見や要望について職員間で検討し、サービス向上に活かしている。話題は限定せず些細なことでも話しやすい雰囲気づくりを心がけて意見交換を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。日頃の取り組みや活動状況を報告しており、意見や助言を得ることができるようにしている。利用者や家族にも出席を呼びかけている。利用者がカセットレコーダで会議の様子を録音してくれており、議事録の作成などに役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	関係者に運営推進会議に参加して頂き、実情の把握と共に協力関係を築いている。必要書類や制度上の疑問点について課題の解決に繋げ、保護課には定期的に入居者の様子を伝え助言協力を頂いている。	管理者と職員は、市担当者や保護担当者等に、“かがやき便り”などを届けるなどして、事業所の現状や取り組み、活動状況を伝えている。市担当者等から意見や助言を得ている。運営に関する相談も行っており、サービスの質の向上に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会やマニュアルの整備により職員の知識を深め、常に介助方法の話し合いを持っている。家族の了承を得た上で安全面から玄関を施錠している。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルを整備し、定期的に勉強会等の機会を設けている。職員は身体拘束の弊害を理解し、利用者の自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング時に理解を深め、虐待行為の防止に努めている。日々の業務内で意識が高く保たれるよう、ケアの方法について職員間で話し合いの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と話し合う機会を持ち、法人の顧問弁護士を通じて制度が活用できる体制を整えている。成年後見制度を活用して権利擁護を受ける利用者もあり、診断書作成など必要な手続きの支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	段階を踏みながら重要事項説明書の該当箇所を示し、口頭での丁寧な説明に努めている。契約前の見学時と契約当日に十分な説明の上で了承を得てから契約を結んで頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族、利用者の意見や要望を聞き、議事録を送付している。また、面会時のやりとりから個別に意向や苦情等を汲み取り、運営に反映できるよう取り組んでいる。	職員は、家族の来訪時や電話連絡をする際に、利用者の生活の様子を伝えるなどしており、その際に意向や希望を聞くようにしている。来訪の困難な家族には、利用者の状況を“かがやき便り”に添えるなどして送付している。出された意見や要望は職員間で話し合って対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を出しやすい環境づくりを心がけ、日々の話し合いや会議を通じて活発に職員の意見交換を行っている。月2回開催する主任会議での検討を通じて運営に反映できるよう取り組んでいる。	管理者は、日々のケアの中で、職員の意見や提案を聞くようにしている。ユニットリーダーも職員の気づきや意見を把握するようにしている。出された意見等は主任会議で検討し、管理者は法人全体の定例会議で代表者等に伝えるなどして、運営面に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者が頻りに現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。各自が向上心を持って働けるよう資格取得に向けて支援し、資格の評価を行い能力に見合った定期昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に各1回行われている法人内、ホーム内研修に順番に参加し、研修報告書は全員で閲覧している。研修情報も随時発信して参加を促すことでケアの質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで同業者と交流する機会があり、その時の意見交換等をサービス向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・計画作成担当者が面談を行い心身の状態を把握している。ご本人と話し合う時間を設け、要望や不安等を十分に聞くことで安心感が得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活状態・心身状態を聞き取り、問題となっている事や要望を明確にした上で、ホームでどのように過ごしていきたいのかを伺い、サービスに反映することで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何に困っているのかをしっかりと聞き取り、自施設での対応が困難な状況が場合には適切な支援を見極めて必要なサービスの利用を含めた対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力や意欲に合わせて家事などの役割をそれぞれが分担し、共同生活の中でお互いに支え合うことで信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を聞きながら、共に本人を支えていく協力関係の構築に努めている。気軽に立ち寄って頂くため定期的に行事予定のお知らせや近況報告を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら馴染みの美容院の利用や、入居前に交流のあった友人との交流にも柔軟に対応している。家族、友人の面会時には、気兼ねなく過ごせるよう雰囲気作りに配慮している。	事業所では、家族の協力を得たうえで墓参り等の外出を支援している。友人や知人に手紙や年賀状を出す支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解した上で、利用者同士が関わり、支え合える関係が築けるよう支援している。トラブルや訴えがあれば状況に応じて職員が間に入る等、早期の対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の支えとなれるよう退居時には他施設の紹介、また、関係各所と連携の下、退居後の対応についての相談に応じながら関係性が途切れない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情から思いが汲み取れるよう努めている。意思疎通が困難な人にはご家族や関係者からの情報を参考にしながら意向の把握に努め、職員間で共有することで信頼関係の構築を図っている。	職員は、日々の利用者との関りの中で一人ひとりにさり気なく寄り添い、些細なしぐさや表情からそれぞれの思いや意向を把握するよう努めている。その人らしい暮らしを継続することができるよう、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞き取りで得た情報以外にも生活の場面ごとに個々の感じ方、対処の仕方の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるよう、月1回のモニタリングや聞き取りで得た情報と照らし合わせながら把握に努めている。職員間の情報交換を密にし、統一したケアを心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族に事前に聞き取った要望をもとに職員間で意見交換し、介護計画を作成している。定期的な検討会議だけでなく状態の変化に応じ、そのつど現状に即した見直しを行っている。	居室担当職員が中心となって本人や家族の意向の把握に努め、チームリーダーや職員間で意見を出し合うなどして介護計画を作成している。介護計画の内容が実践できているかを確認したうえで、計画の評価や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきを個々のケア記録に記載し、職員間で情報を共有している。記録をもとに、実践の見直しや介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに応えられるよう柔軟に対応している。法人内の他部署や他事業所と連携し、業務改善などにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な地域ボランティアの訪問や地域行事への参加で交流を行っている。また、地域包括支援センター、消防署、銀行等との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の状態を把握している職員が受診に同行し、本人や家族が安心できるよう配慮している。受診結果は電話や面会時に報告し、情報を共有している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科等の受診は家族の協力を得るなどしている。家族の同行が困難な場合は、職員が支援している。受診後には、家族と情報を共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院との情報交換を行い、健康管理や状態に応じた受診の必要性の判断や助言を得ている。毎夕に病院の当直看護師へ状態報告を行い、夜間の急変時の対応に備え、必要とする医療連携につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に情報提供を行い、医療機関と情報を共有しながら速やかな退院支援に結び付けている。また、回復状況の把握や今後の方向性について本人、家族の意向に配慮しながら連絡調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の要望に沿って十分な話し合いがとれるよう体制を整え、事前に書面による説明と意向の確認を行っている。重度化が予測される段階で改めて主治医を交えた話し合いを行い、対応や方針を決定している。	契約時の段階で、重度化や終末期に関する事業所の方針を本人や家族に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族や医療関係者、職員間で話し合い、方針の再確認をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。月1回の勉強会やホーム内のヒヤリハット会議で個々の事例を検証し、意見交換することで実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の内1回は消防署員立ち会いのもと避難訓練を実施している。環境避難マニュアルに沿って隣接事業所との合同訓練も同時に行い協力体制を築いている。実際の災害を想定し非常食も備蓄している。	事業所では、地震等の災害時の対応マニュアルを整備している。消防署の協力を得たうえで、利用者や職員で実践的な避難訓練を行っている。災害に備えて非常食などの備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にゆとりを持って利用者一人ひとりに合わせた声掛けを行っている。排泄も利用者の仕草やサインを見逃さず、さりげない言葉かけをするよう心掛け、プライバシーへの配慮に努めている。	管理者と職員は、日々の利用者との関わりの中で、一人ひとりの個性を尊重した支援に努めている。日常的な会話の中でも、利用者のプライバシーや尊厳を損なうことがないように留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを汲み取り、職員がすべてを判断するのではなく自己決定ができるよう支援を行っている。意思表示が難しい方でも、意向や関心のあることの把握に努め、希望に添った選択ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や意向を尊重した対応を心がけている。共同生活を営む上で大まかな日課はあるが、その時々自分のペースに添った活動や余暇の過ごし方ができるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や外出時に合わせた服装を整え、利用者の好みを大切にしながら自己決定ができるよう支援している。毎月1回の理容師の施設訪問の他、馴染みの美容院利用の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮している。折にふれて家庭菜園で収穫した野菜を食卓に並べ、食事内容を工夫している。調理の準備や片付けを利用者と共に行い、職員も同じテーブルで食事を楽しんでいる。	同一法人の運営する併設の他サービス事業所の管理栄養士が献立を作成し、職員が調理している。家庭菜園や裏山で収穫した食材を献立に活用している。利用者の心身状況に応じた食事形態とし、自分で楽しく食べることができるよう工夫している。利用者と職員で台所に立ち、お茶の用意や調理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立の中で、食習慣に応じて嗜好品を加えたり、形状を工夫したりして利用者に合わせて配慮している。食事が進まない人には摂取しやすく好みの補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは個々の能力に応じて声掛けや介助を行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 2 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄周期に合わせたトイレ誘導・声掛け・介助を利用者ごとに行っている。できる限りトイレを利用して排泄の自立を支援すると共に、夜間は安眠を妨げないよう吸収量の多いパッドを使用するなど個別に対応している。	事業所では、利用者の排泄記録に一人ひとりの排泄周期を記録しており、個別の状況を把握したうえで声かけなどを行っている。夜間には安眠を優先しつつ、利用者の心身の状況に応じた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や、毎朝のヨーグルト摂取等の個々に合った水分摂取への配慮、日頃の様子観察から自然排便を促す取り組みを行っている。個々の状態に応じ緩下剤を調整しながら便秘症の解消と予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際は、利用者の状況に応じて脱衣所で見守りしたり、支援が必要な方は浴室に入り介助をしている。希望に添えない時もあるが、要望や体調に応じて、入浴日の変更や介護者の交代を行っている。	事業所では、利用者の入浴習慣を把握し、時間等の希望にそうすることができるよう努めている。職員は、入浴時の安心・安全面に配慮し、機械浴やシャワーキャリーなども活用するなどして、個別の入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動や休息を促し、生活リズムを作ることで安眠できるよう取り組んでいる。寝付けない人には、声をかけて不安を和らげたり照明にも気を配ったりしながら安心感を持って頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協業薬局の指導と管理の下、服薬支援を行っている。個別に情報ファイルを整理し職員間で情報共有すると共に、服薬後の経過を記録している。不明な点があれば随時連絡・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いのある生活が送れるよう、その人の能力や生活歴、得意なことに応じた役割を担ってもらったり、個々の希望に沿った活動ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの要望やペースに応じて戸外に出られるよう配慮している。家族の協力も得ながら希望に沿った外食や買物を企画し実施している。そのつど利用者の意見を聞き、次の計画に反映できるように取り組んでいる。	事業所では、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの外出への希望を把握し、ドライブや買い物、外食等に出かけている。すぐに希望にそうすることが難しいときには、利用者とは話し合って予定を立てる時間を設けるようにしている。家族の協力も得て外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 ユニット 2		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人は、家族の協力を得た上で職員と共同で管理を行いながら支払いを行っている。所持していない方でも、買い物の際は自分で支払ができるよう能力に応じて工夫をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話を利用して頂いている。携帯電話を所持し自由に連絡を取り合う人もいる。手紙や年賀状の支援も行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音、料理をしている匂い、季節感のある献立、居室には馴染みの家具を置き、季節に合った花を飾るなど、生活感のある居心地のよい環境づくりに努めている。リビングでは車イスや老人車が行き交える十分なスペースを確保している。		共用空間は明るく、窓からは森林の木々や季節の移り変わりを感じることができる。廊下の壁面には、利用者と職員で作成した作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとした共有空間に椅子やソファを配置し、気の合う者同士が思い思いに過ごせるよう席の配置を工夫している。くつろげるスペースを確保し、集まりやすい空間となるよう心がけている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にのれんを取り付けプライバシーに配慮している。ご家族の協力を得て、馴染みの家具や日用品を持ち込んで頂き、居心地のよい環境作りに気を配っている。		事業所では、本人や家族と相談し、一人ひとりの馴染みの家具や冷蔵庫などの電気製品を持ち込んでもらっている。居室の入り口には、のれんを用意するなどしてプライバシーにも配慮している。利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室等は理解して頂けるよう大きく案内している。今できることを生活リハビリとして捉え、安全で個性のある環境に配慮し支援している			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 1 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を目に付きやすいリビングに掲げている。プラン検討や行事企画の際、実践の方法について勉強会やミーティングを通じて話し合っている。	常に目につく所に理念を掲げている。理念の実践について常に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	宅宮神社のお祭り、上八万文化祭に参加、地区の運動会で競技に参加したり、近所のスーパーへ買い物に出かけ交流している。	散歩でのあいさつで顔なじみとなり、地域での集まりに参加させてもらいながら交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に施設に出入りできるよう環境を作り、相談者がいつでも来所できるよう整えている。運営推進会議を通して民生委員の方、ボランティアの方と話し合いを行っている。	2ヶ月に1度開催する運営推進会議で地域の方やボランティアの方、民生委員の方との話し合いを行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の業務の状況や取り組みについて報告し感想や意見を頂いた上でサービスの向上に努めている。	日々の取り組み状況の報告を行い、参加者に感想や意見を頂き、サービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出書類、加算要件確認など制度面の疑問点は、随時職員に連絡し教えてもらったり、保護課職員に定期的に入居者の様子を伝え連携を深めている。	届出書類、加算要件確認など制度面の疑問点は、随時職員に連絡し教えてもらったり、保護課職員に定期的に入居者の様子を伝え連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル、資料を整備し職員に周知している。また原則身体拘束は行っていない。施錠については家族の理解を得ている。	身体拘束をしないケアのあり方について勉強会やマニュアルを通じ、常に職員間で話し合う事をしている。施錠については家族の理解を得て安全面を重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで防止法の理解を深め、虐待行為の防止に努めている。虐待の自覚がないことの危険性についても常に話題にするようにしている。	資料を利用し勉強会などで話し合いの場を設け楽隊防止に努めている。入居者との間でストレスと感ずる事はないかミーティングを通じて話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 1 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内のバックアップ体制を整えており、その必要のある利用者については法人の顧問弁護士と相談を行い、いつでも活用できる体制がある。	関係者より相談があれば相談を受け、法人内のバックアップ体制は整っているためいつでも活用できる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明手順があり、手順に沿って十分に説明を行い、契約解除の際にも家族や本人と話し合い理解、納得を得るようにしている。	マニュアルを作成しており、それに沿って説明を行い、本人を中心に家族と共に話し合い理解を得るようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議の際に意見、要望を聞いたり、議事録を全家族に送付し意見や結果を見てもらっている。日常的にも利用者、家族の意見を伺い対応している。	茶話会でお茶を共に飲みながら入居者からの意見や要望など伺い、家族会や面会時に話し合い、職員間にも周知され、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回開催される法人主任会で部署の意見をまとめて発表したり、勉強会、ミーティングの時以外にも日常的に職員の意見、提案を受けて反映させている。	月2回開催される法人主任会で部署の意見をまとめて発表し、運営に反映させている。ミーティングの時以外にも日常的に職員が要望等を出しやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者も頻りに現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格取得に向け支援し、能力にあった定期昇給もしている。毎月21日には勤務状況の報告を行っている。	勤務状況を把握し、管理者や職員からの希望を聞き、できるかぎり希望に沿った職員職場環境、条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、ホーム内研修は月に各1回行われているので順番に参加してもらい、研修報告書は全職員が閲覧できるようになっている。	法人内、ホーム内で行う研修には必ず参加し、研修報告は全職員が閲覧できるようにしている。法人買いのスキルアップを図る研修日程表は目につく所に掲示している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に交流を図ったり、法人内各部署との交流でサービスの質の向上に役立っている。	法人内部署との勉強会や外部研修時に他施設との交流を図り、サービスの質の向上に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 1 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には面談し、本人や関係者の言葉を聞くようにしている。家族が安心できるような話を聞き説明を行っている。	本人、家族との面談を行い、心身状態、本人が不安な事、困っている事を聞き、本人が安心できるような関係づくりに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人が何に困っていて、何を求めているかを聞き、事業所に出来るサービスを説明し、信頼を得る努力をしている。	家族様の不安、要望を聞き、法人内で行えるサービスを説明したり、連絡をまめに行い信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の把握を行い、必要とする連携も十分に話し合い、必要とする支援について法人内の担当者と相談し家族に伝えている。	心身状態を把握し、必要な支援を見極め、法人内の他施設とも連携して対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら和やかな生活ができるように役割の分担(掃除、ゴミ捨て、洗濯たたみ)や声掛けを行っている。	共に暮らしていく中で個々の能力を生かせる役割分担を行い、和やかに生活できるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意向や本人への対応の相談をしている。本人の気持ちを汲んで頂き面会に多く来てもらったり、外出(外食、美容院等)に出てもらったり、穏やかな生活に協力してもらっている。	日常生活の報告、意向や本人への対応の相談をし、協力し合える関係が築けるよう努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の来訪時には心地よく過ごして頂けるよう配慮している。面会時には近況を伝え、利用者を交えて状況共有することで関係継続の支援に努めている。	家族や友人との面会が気軽にでき、急な外出等にも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別にゆっくり話を聞いたり、月1回茶話会を開催したり、毎日午前と午後レクリエーションの場をもうけ交流を図ったりしている。また、関係が円滑になるよう働きかけをしている。	利用者同士の関係、能力、性格等を把握し、交流の場を設けている。利用者同士が関わりあえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 1 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった本人、家族共に不安は大きいのでお見舞いに行って話を聞き心のケアに努めている。また退院前後の相談にも応じている。	これまでの関係を大切にし、話を聞いたり相談や支援、心のケアに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で言葉や表情、仕草等から汲み取って把握に努め、また家族からの情報も得るようにしている。	希望や要望を聞いたり、日々の暮らしの中で変わった事があれば記録し、ミーティング等で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞き取りで得た情報以外にも生活の場面ごとに個々の感じ方、対処の仕方を理解することに努めている。	本人、家族、関係者等からの情報や日々の暮らしの中で情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや出来ること出来ないこと、毎日の状態を把握している。月1回のミーティングで話題にし、記録に残し他の職員と共有している。	一人ひとりの日々の暮らし方、心身状態、できる事、できない事など日々変化していく事を記録し、現状の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時に、本人には日常生活の中で自然に意見を聞き、職員全員で意見交換を行い、計画作成している。	家族には面会時、時には電話をし、本人には日々の会話の中で意見を聞き、職員間でミーティングやモニタリングを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきは個々のケア記録や申し送りノートに記載し、職員は情報を共有し記録を元に見直し、評価を行っている。	月間サービス表のチェックや個別のケア記録、申し送りノートに記録し情報共有に努めている。モニタリングを通じて見直し、検討を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて必要とするニーズに応えられるよう、その時々急な外出、通院には柔軟に対応している。	本人や家族の状況や希望があれば柔軟に対応できるよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 1 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、ボランティア団体との共同、消防署、銀行等との連携を図っている。	地域包括支援センターやボランティア団体との協同、消防や銀行等との連携を行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の病院と医療連携を図り本人、家族の希望を大切に受診援助を行い、他病院受診についても柔軟に対応している。	本人、家族の希望を聞き、提携病院の受診介助や送迎を行い、他病院受診についても柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院との連絡は随時行い、健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。毎夕に法人の病院の当直看護師へ状態報告を行い、夜間の急変時の対応に備えている。	常に提携病院との連絡を行い、利用者の適切な受診や看護が受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を図り、日頃より関係確立を行い、緊急時または必要時に情報が共有できるよう努めている。	提携病院と連携を図り、情報共有できるよう努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての看取りに関する指針を示し、書面を基に家族の意向を確認している。利用者の状況変化に応じて主治医を交えた話し合いを通じて、今後の方針を決定している。	事業所でできる事を説明し、書面を基に家族の意向を確認している。利用者の状態に応じて主治医を交えた話し合いの時間がとれる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、応急手当や初期対応について定期的に勉強会を開催することで周知徹底を図っている。	急変時対応マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。体調の変化に応じ、随時医療機関へ連絡し、指示を受ける体制を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアルを整備し、日中と夜間を想定した年2回の避難訓練を利用者と共にしている。隣接施設との連携訓練も同時に行っている。	避難マニュアルを整備し、年2回春と秋に利用者と共に避難訓練を行っている。隣接施設との連携訓練も同時に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 1 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を心がけている。職員の注意すべき言動にはそのつど話し合い、意識向上に努めている。	プライバシーを守り、一人ひとりの人格を尊重した言葉づかいや対応を心がけている。不適切な対応には注意を促し職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的なささやかな生活パターンも「自ら」を基本に声掛けしている。気持ちの変わりやすい方にはそのつど確認し自己決定を尊重している。	日常的なささやかな生活パターンも「自ら」を基本に声掛けしている。気持ちの変わりやすい方にはそのつど確認し自己決定を尊重している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが個々の生活ペースを大切にしている。認知症により意欲低下が見られる方に対しては気持ちに寄り添いながらゆっくり過ごして頂くようにしている。	基本的な一日の流れはあるが、希望に応じた一人ひとりのペースを大切に、希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のセンスを大切にし、希望の身だしなみができるよう自己決定を通して支援している。美容師に直接説明できない人は職員が代弁するなどのお手伝いもしている。	自己決定できる方にはその人らしさが実現できるよう支援し、できない方には職員がお手伝いしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や片付け等、個々の力や役割に合わせて職員と一緒にしている。職員も共に入居者と同じテーブルに着き、楽しく食事ができるよう配慮している。	献立により下準備や配膳、片付けを利用者と共に行い、昼食は利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を把握し、能力に応じた食事形態を提供している。おかゆや副食をミキサーにかけたり刻む、とろみをつける等工夫している。必要な方には補食も提供している。	その日の状態を把握し、食事量、水分量、栄養バランスが一日を通じて確保できるよう支援している。食べやすいよう工夫もしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、個々の力に応じたお手伝いをしている。就寝前には義歯の洗浄や管理を行っている。	毎食後、本人に応じた口腔ケアを行い、就寝前は義歯の洗浄を行っている。汚れや臭いがひどい時には提携歯科を受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 1 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない誘導、声掛けにて一人ひとりに合わせてトイレでの排泄を促している。能力に応じてパッド交換や洗浄を行い清潔保持に努めている。	排泄のパターンや習慣の把握を活かし、一人ひとりに合わせた誘導や声掛けを行っている。能力に応じ、おむつ交換や洗浄、清拭を行い清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や個々に合った飲み物の工夫で水分摂取してもらい自然排便できるよう取り組んでいる。それでも改善されない場合は随時主治医への相談を行っている。	水分摂取、体操や散歩等により自然排便を促すよう取り組んでいる。改善されない場合には主治医への相談を行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体状況や気分に応じて週2～3回入浴を提供している。状況によってはシャワー浴、足浴、清拭を行い清潔の保持に努めている。	希望に添えない時もあるが、後日優先するなど配慮し、楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。前夜の睡眠状況を把握し休息をとって頂いたり、夜間不眠の顕著な方には家族や医師にこまめに相談しながら職員と一緒に過ごしたりして対応している。	一人ひとりに応じた支援を行っている。夜間不眠の方には日中の過ごし方や適度な休息をとって頂いている。顕著な方には家族や医師に相談しながら対応している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の説明書を整備し、受診記録をつけ職員間で情報を共有している。服薬チェックを行い身体状況に変化あれば医師や看護師に報告を行っている。	医療機関および提携薬局と連携を取り、一人ひとりの服用薬を時間帯別に整理し、服薬支援を行っている。変化があった場合には、提携病院への受診や24時間相談できる体制を整えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意な事を把握し簡単な家事手伝いや裁縫等、役割を持つ事で力が発揮でき楽しく生活できるよう支援している。	生活歴や能力を活かした役割が担えるよう支援している。趣味活動や散歩、外食、買い物等で気分転換が図れるよう取り組んでいる。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら散歩や日光浴等を行っている。事業所行事には家族も参加したり、地域の方とのふれあいも行われている。	希望に添った散歩、買い物、地域での祭りや展示会に出かけたり、家族の協力も得て夕食やドライブ等を計画し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 1 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方は常時お金を持つことはしないが、事務所管理で必要な時に使えるようにしている。支払いの時はレジでの動作が行えるよう付き添い支援している。	外出行事や買い物の際、好みの物が購入でき可能な限り利用者が支払いをできるよう、希望や能力に応じて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら個別に支援している。携帯電話を所持し、家族と自由に連絡を取り合っている。	入居者の希望に応じて、手紙や電話のやり取りができるよう支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう飾り付けを利用者と一緒に行い、心地よい環境づくりに取り組んでいる。ゆったりと好きな場所でそれぞれに過ごせるよう配慮している。	生活感や季節感を採り入れた共用の空間で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングに配した椅子、ソファで仲の良い方と楽しく語り合ったり、気兼ねなくうたた寝したできる空間となるよう気を配っている	一人で過ごしたり気の合った者同士で過ごしたりできるよう、テーブルやソファの配置等に配慮している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様にご協力を頂き、入居時には、使い慣れた家具、食器、日用品等を持参して頂いている。なじみの物があり安心できる環境作りのお手伝いをしている。	家族の情報に基づき協力を求め、馴染みの家具を持参してもらい居室環境を整えている。それぞれの入居者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに解りやすく張り紙をしたり、解りにくいところに目印をつけたり、動線に障害物がないよう注意したり環境整備に努めている。必要な方にはポータブルトイレを居室に配置している	目印をつけたり、夜間に居室でポータブルトイレを使用できるようにしたり、必要な声かけや誘導を行っている。	